

NUA 学術情報システム研究会 講演

「早稲田大学の IR のこれまでとこれから—組織・人材・ツールの検討—」

2017/06 報告者 姉川 恭子（助教）

日時 2017年6月22日（木）～23日（金）

場所 福岡大学 中央図書館

内容 NUA 学術情報システム研究会 講演（1日目）

「早稲田大学の IR のこれまでとこれから—組織・人材・ツールの検討—」

NUA 学術情報システム研究会において、「早稲田大学の IR のこれまでとこれから—組織・人材・ツールの検討—」と題して講演をさせていただきました。参加者数は 80 名程度、そのうち大学関係者が 7 割程度で、多くが中規模以上の私立大学の方々でした。講演の概要は以下のとおりです。

- 【組織】現在 IR の機能を担う大学総合研究センターの設立経緯と取り組みの概要、一極集中型ではなく、各部署を中心とした「分散型 IR」の運営方法や課題について
- 【人材】分散型 IR を進めていくにあたり必要な人材育成、SD との連携について
- 【ツール】DWH と SAS VA の活用と課題について
- 【事例】大学内における IR に関する実態調査、EMIR に向けた学生調査の奨学課プロジェクト、BDP (Big data Discovery Program) について

質疑応答の時間では、アメリカにおける IR の事例を踏まえ、本センターではアクセディテーションの対応をどのように考えているのか、また、分析結果等を執行部に返すための体制についてご質問いただきました。アクセディテーションに関しては、現在、大総研には教務部との兼任職員が複数いること、教務部と合同で「教育に関する懇談会」を開催していることとともに、更に連携を深めていくことの必要性を日々感じています。

また、大学執行部との関係については、現在は、必要に応じて会議や委員会、その他の会議体において結果の報告、議論等を行っている状況です。いずれの質問も、恒常的に IR の PDCA を効率的に回していくために、引き続き検討していくべき課題です。

その他、講演後にいただいたご質問の中で多かったものをいくつかご紹介いたします。

- 「何を」するのか、「何から」始めるのか
やはり、立ち上げたばかりの IR オフィスが抱える課題として、何から初めて良いかわからないという悩みは多くの大学が抱えているようです。
- 人材育成について
企業の方々からのご意見として、どの組織においても、人材育成をいかに行っていくのかというのは常に重要な課題の一つであり、大学-企業間の人事交流等を行い、ぜひ、大学のことを色々学ぶ機会をいただきたいというようなご意見もいただきました。

